

2020 年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人バルビー

代表者・役職名 氏名 代表理事 中村聖悟

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

新型コロナウイルス感染症予防衛生用品を含めた避難グッズの備えプロジェクト

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2011年コミュニティ形成支援活動開始。2016年熊本地震における緊急支援活動を機に長期復興支援活動の必要性を感じたメンバーで2017年6月法人化。会員16人。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

水害の多い季節を目前に、熊本県の避難所指針等にも消毒液を持参する等のコロナ予防対策をしたうえで避難することが盛り込まれている。熊本地震被災者における避難グッズの必要性の認識の低下や備えが心配される上、消毒液やマスクの入手困難から積極的な準備に障壁がある。コロナ禍での仮設住宅から災害公営住宅等への転居時期が重なり、交流の場が制限される中、高齢者等の孤立が危惧される。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

新型コロナウイルス感染症予防のために必要とされるマスクや消毒液等を含めた避難グッズ入りバッグを準備する。必要に応じて熊本地震の被災者に配布する。
グッズ内容:携帯消毒液、手ぬぐい、石鹸、ウェットティッシュ、ティッシュ、マスク、紙皿、ラップ、給水ボトル、軍手、LEDライト付きラジオ、ふろしき、防寒シート、缶パンなど

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

結果:感染予防用品を含めた避難グッズ入りバッグ200セットを準備して、熊本地震被災者に配布した。
成果:仮設団地や自治会主催の住民の集まりにて配布したところ、「準備していなかった」「豪雨災害が起き、地震の際の記憶が蘇えり、避難準備が必要と思っていたところ」「必要用品が入っていて助かる」「いつでも持ち出せるようにしておく」等、意識の向上や行動準備の様子が見られた。
効果:コロナが存在する世の中でも最低限の用品の備えがあることで必要な際に躊躇なく避難できる。避難所において個々の準備や意識があることで感染防止対策の一助となり、運営の負担軽減ができる。コロナ禍における避難を考える契機をつくることできた。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

プロジェクト実施直前に令和2年7月豪雨災害が起こり、熊本県南部に大きな被害をもたらした。熊本地震の支援活動と並行して豪雨災害の緊急支援を行う事態となった。
with コロナの社会となり、持ち出し用避難グッズに感染症予防用品を含めることの必要性を啓発しつつ、必要がある場合には備える支援も継続したい。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、必ず、別途、ご提供ください。